水稲の生育状況と今後の管理対策（第５号）

令和２年７月９日
新潟県農林水産部

〔７月８日現在の生育状況〕

コシヒカリ

◎　指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「並」、葉数の進みは「並」ですが、茎数と葉色は地域差が大きく「やや少ない～多い」、「並～濃い」状況です。生育は２日程度早い状況です。

新　之　助

◎　指標値に比べ、草丈は「やや長い」、葉数の進みは「並」、ですが、茎数と葉色は地域差が大きく、「少ない～多い」「並～濃い」状況です。

（参考）こしいぶき、ゆきん子舞、つきあかり

○　長岡市に設置した調査ほ場では、葉数の進みは並～やや早め、茎数は並～やや少ない傾向となっています。こしいぶき（５月 11 日植え）は７月６日に幼穂[*1]形成期を迎えています。

〔気象予報と今後の生育見込み〕

◎　７月９日発表の１か月予報（７月 11 日から８月 10 日まで）によると、平均気温は 17 日までは平年並か低い見込みです。向こう１か月の降水量は多い見込みで、日照時間は少ない見込みとなっています。

◎　これまでの高温気象により、水稲の生育は平年より進んだ状況が続き、出穂期は平年より２日程度早まる見込みです。

◎　当面、日照不足が続く見込みであることから、葉色の推移に注意が必要です。

〔管理対策のポイント〕　★は重要ポイント

早 生 品 種

★　地域の農業普及指導センターや JA 等の技術情報を参考にして、出穂期 14 日前をめやすに２回目の穂肥[*2]を必ず施用しましょう。

★　特に、多収性品種では収量確保のため、適正な穂肥施用を徹底するとともに、飽水管理[*3]を出穂期 25 日後まで継続しましょう。

★　今年は平年に比べてカメムシ類の発生が多く、現在注意報が出ています。カメムシ類による斑点米被害を抑えるため、計画的な除草と防除を徹底しましょう。

・　多収栽培で肥料を多く施用したほ場では、いもち病が発生しやすいため、葉いもちの発生を確認した場合は、速やかに薬剤防除を行いましょう。

コシヒカリ

★　全体的に生育が早まっています。また、葉色の地域差も大きくなっています。幼穂長や葉色を確認するなどの生育診断を必ず行い、地域の農業普及指導センターや JA 等の技術情報を参考にして、適期に適正な量の穂肥を施用しましょう。

★　葉色が濃いほ場では、倒伏や籾数過剰が懸念されるため、１回目の穂肥施用時期を遅め、施用量を控えめにしましょう。

・　登熟期の栄養不足による品質低下を防ぐため、飽水管理を継続し、根の活力維持と上根の発生促進を図ってください。

★　平年に比べ、主要な加害種であるアカスジカスミカメの発生が多く、現在注意報が出ています。斑点米カメムシ類の被害を抑えるため、計画的な除草と防除を確実に実施しましょう。

新　之　助

★　いもち病の感染好適条件が観測されています。新之助はいもち病抵抗性が弱いので、病斑を確認した場合は速やかに薬剤防除を行いましょう。

★　葉色の落ちに地域差が見られます。地域の農業普及指導センターや JA 等の技術情報を参考に、幼穂形成期の草丈と葉色に基づいた適正量の穂肥を施用し、「食味・品質基準」を達成するための適正な籾数と出穂期の葉色に誘導しましょう。

・　全量基肥施肥では、幼穂形成期以降、葉色が低下してもその後回復するので追肥は控えましょう。ただし、異常高温で栄養不足が懸念される場合は、栄養状態を維持するため、追肥を検討しましょう。

・　中干し[*4]は出穂期 1 か月前までに終了し、中干し以降は、発根促進や根の活力維持のため、浅水の間断かん水[*5]から徐々に飽水管理に移行しましょう。

*1 幼穂：穂が出る前の成長途中の穂
*2 穂肥：穂が出る前に追肥すること
*3 飽水管理：土壌を湿潤状態に保つこと
*4 中干し：田の水を落として、一時的に田を乾かすこと
*5 間断かん水：たん水状態と落水状態を数日間隔で繰り返す水管理方法

熱中症予防

★　蒸し暑い気象が見込まれます。農作業時は水分補給や休憩時間を十分に確保するなどの熱中症予防と健康管理に十分注意しましょう。

◎　今後の管理対策発信予定日　　7 月 21 日・28 日・31 日、8 月 21 日、9 月 11 日

〔補足資料〕

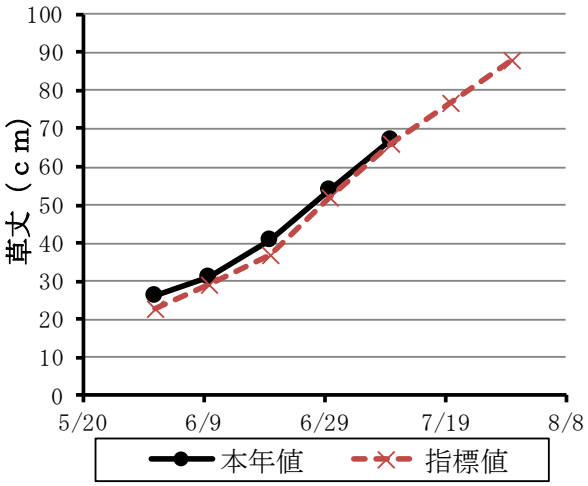
１　農業普及指導センター及び作物研究センターの生育状況（７月８日現在）

コシヒカリ

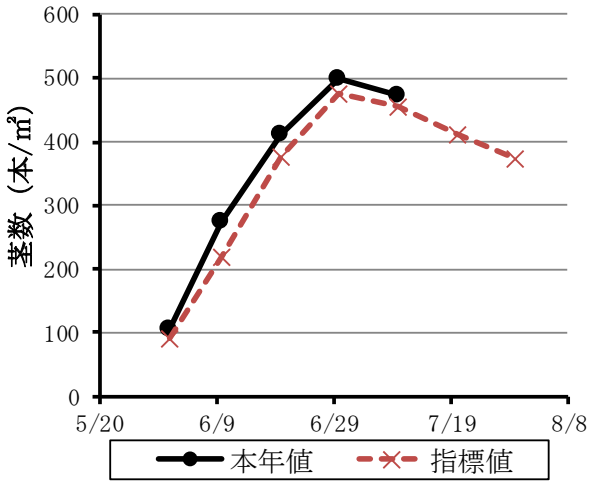
○　指標値に比べ、草丈は「並」、茎数は「並」、葉数の進みは「並」、葉色は「やや濃い」状況です。ただし、茎数と葉色については地域別で見ると「やや少ない～多い」、「並～濃い」と地域差が大きい状況となっています。

項目	本年値	指標値（県平均）	指標値との比較	指標値比・差
草丈	67 cm	66 cm	並	102%
茎数	472 本/㎡	455 本/㎡	並	104%
葉数	11.2 葉	10.9 葉	並	+0.3 葉
葉色（SPAD 値）	37.5	36.0	やや濃い	1.5

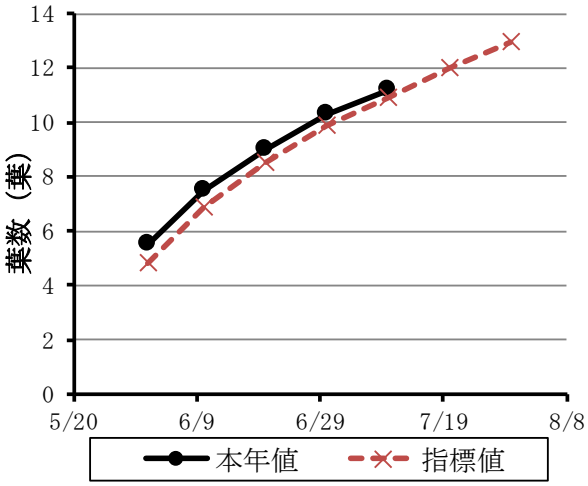
注）県内全域の 117 生育調査ほデータの平均値（田植え５月 10 日、栽植密度 16.9 株/㎡）



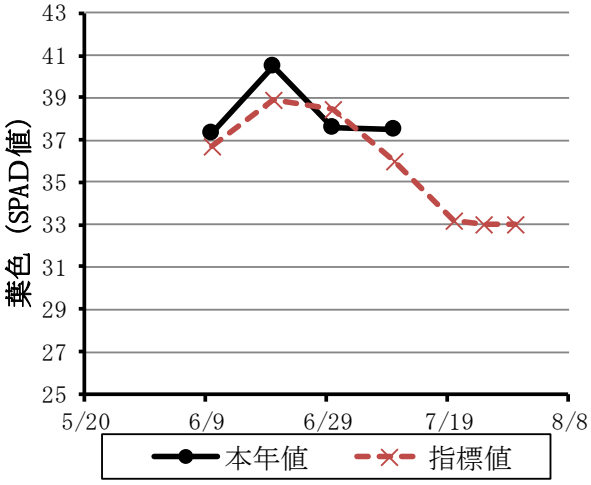
草丈の推移
（県全体）



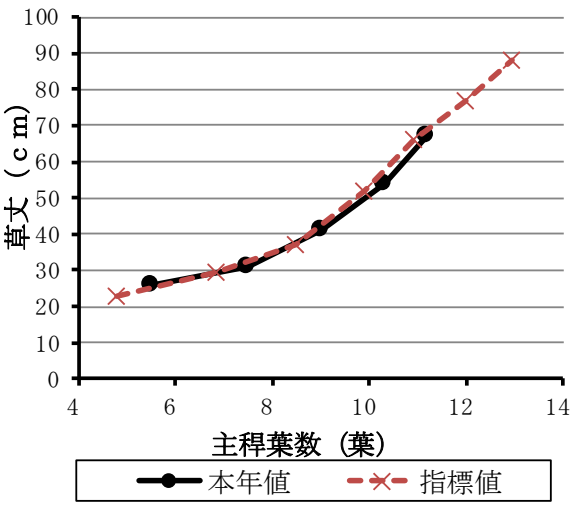
茎数の推移
（県全体）



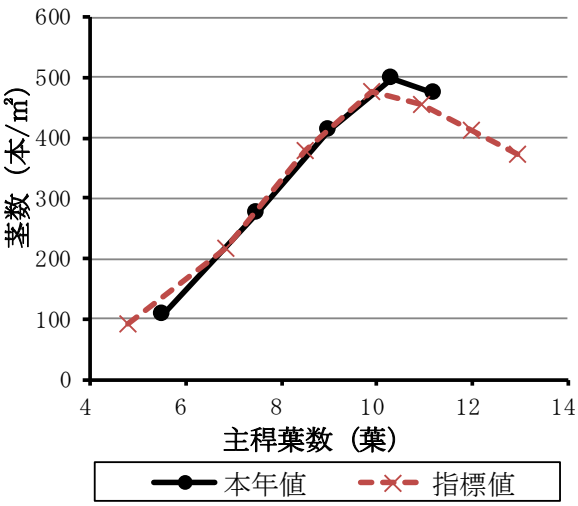
葉数の推移
（県全体）



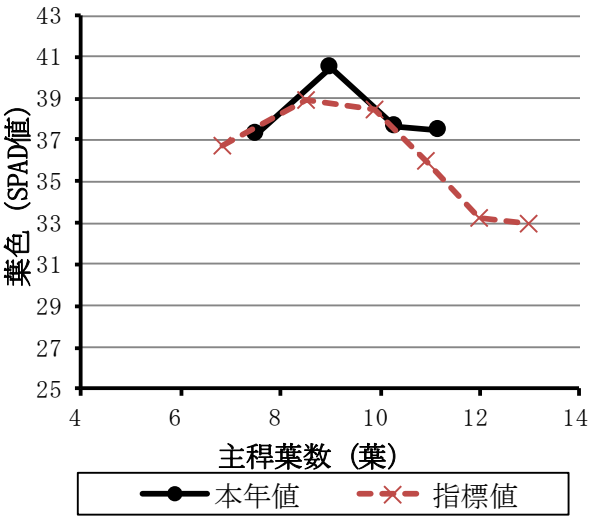
葉色の推移
（県全体）



葉数と草丈
（県全体）



葉数と茎数
（県全体）



葉数と葉色
（県全体）

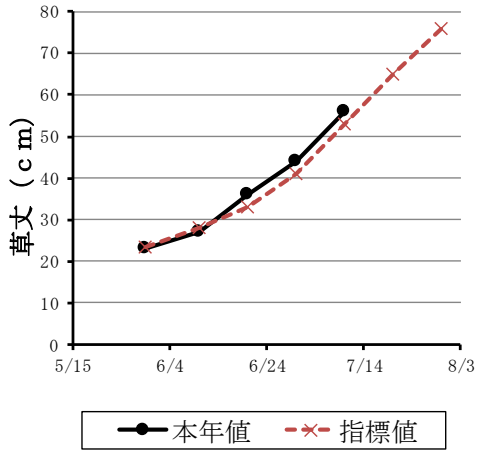
◎　出穂期は平年より２日早い８月３日頃と見込まれます（全県の予測）。

新之助

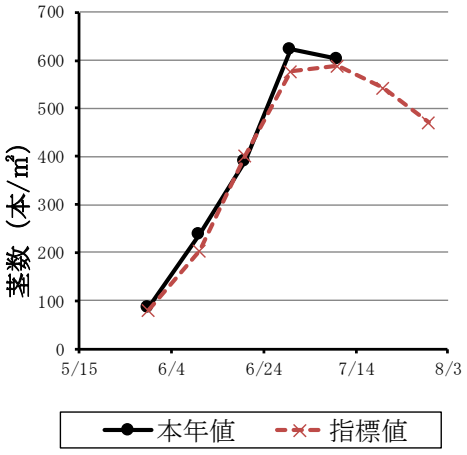
○　指標値に比べ、草丈は「やや長い」、茎数は「並」、葉数の進みは「並」、葉色は「濃い」状況です。ただし、茎数と葉色については地域別で見ると「少ない～多い」、「並～濃い」と地域差が大きい状況となっています。

項目	本年値	指標値（県平均）	指標値との比較	指標値比・差
草丈	56 cm	53 cm	やや長い	106%
茎数	604 本/㎡	588 本/㎡	並	103%
葉数	11.4 葉	11.2 葉	並	+0.2 葉
葉色（SPAD 値）	38.1	35.6	濃い	+2.5

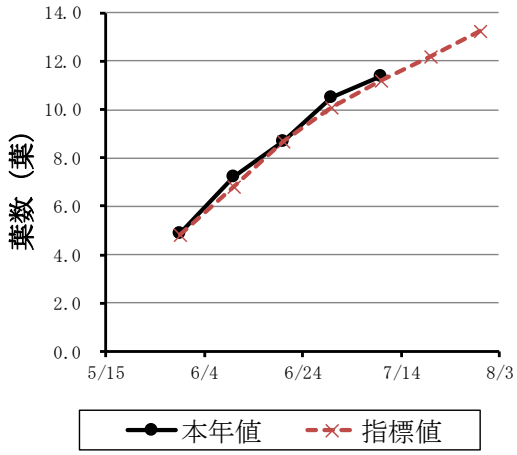
注）県内全域の 15 生育調査ほデータの平均値（田植え 5 月 17 日、栽植密度 16.0 株/㎡）



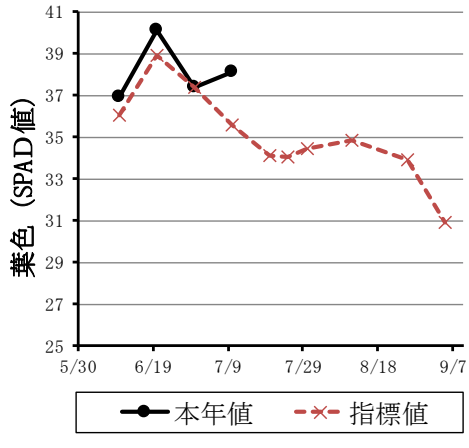
草丈の推移



茎数の推移



葉数の推移



葉色の推移

◎　出穂期は平年より２日早い８月９日頃と見込まれます（全県の予測）。

こしいぶき

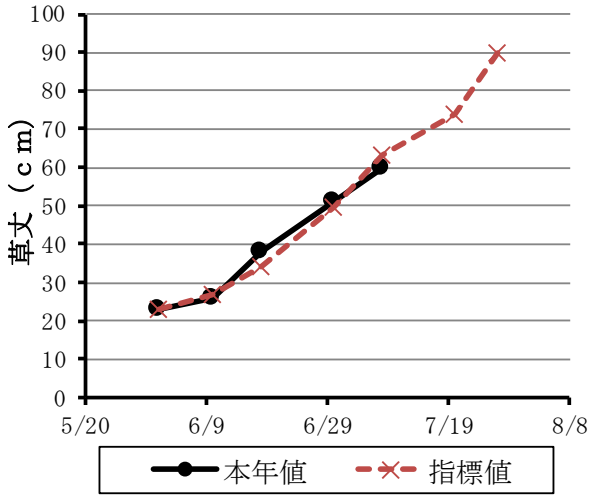
○　指標値に比べ、草丈は「やや短い」、茎数は「やや少ない」、葉数の進みは「やや早い」、葉色は「並」の状況です。

項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	60 cm	63 cm	やや短い	95%
茎数	534 本/㎡	567 本/㎡	やや少ない	94%
葉数	11.7 葉	11.3 葉	やや早い	+0.4 葉
葉色（SPAD 値）	39.2	38.8	並	+0.4

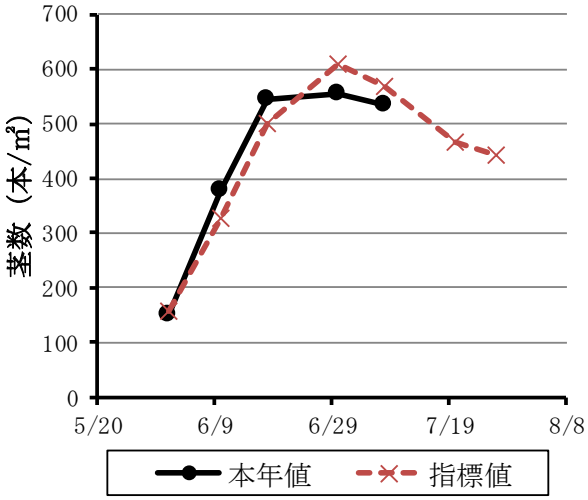
注１）化学肥料栽培　田植え５月 11 日、栽植密度は 19.8 株/㎡

注２）基肥窒素成分量　3.0kg/10a、穂肥窒素成分量　1.0＋1.0kg/10a(1 回目：7/6、2 回目：7/14 予定)

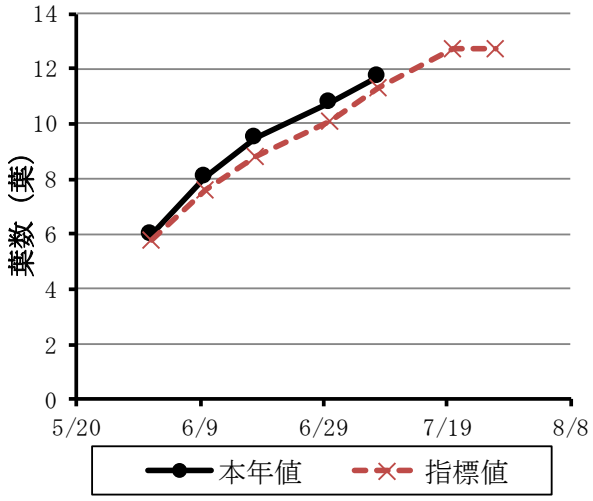
注３）長岡市長倉町（作物研究センター）の生育調査ほデータ



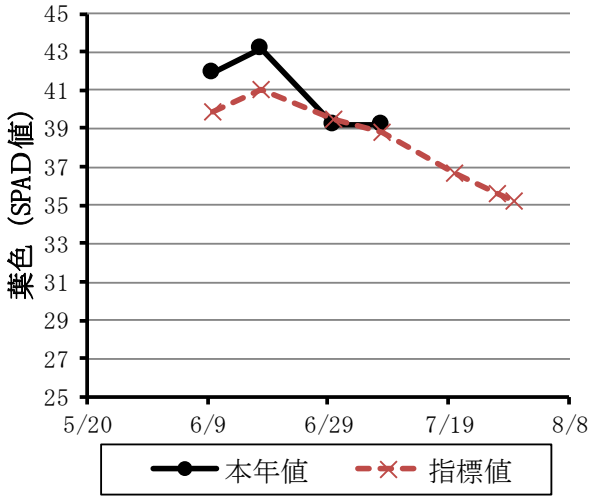
草丈の推移



茎数の推移



葉数の推移



葉色の推移

◎　出穂期は平年より２日早い７月 25 日頃と見込まれます（全県の予測）。

ゆきん子舞

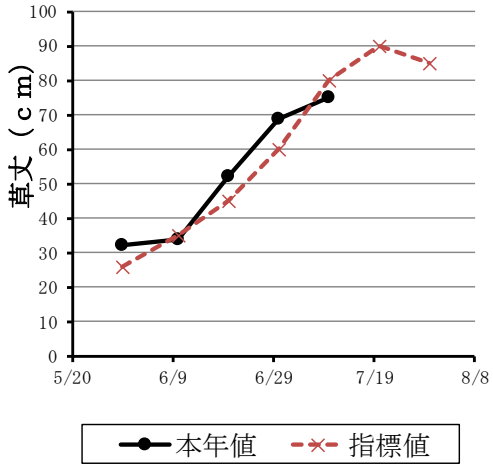
○　指標値に比べ、草丈は「やや短い」、茎数は「並」、葉数の進みは「並」、葉色は「並」の状況です。

項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	75 cm	80 cm	やや短い	94%
茎数	513 本/㎡	500 本/㎡	並	103%
葉数	12.2 葉	12.0 葉	並	+0.2 葉
葉色（SPAD 値）	38.4	38.0	並	+0.4

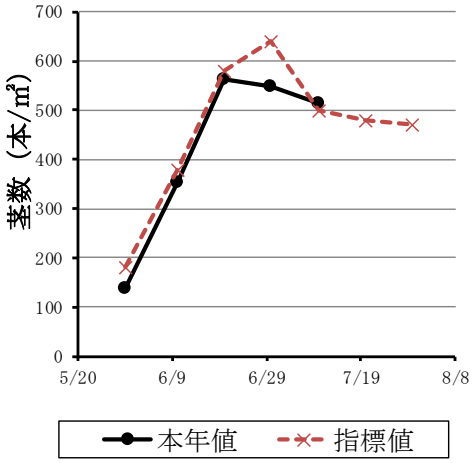
注１）化学肥料栽培　田植え５月１日、栽植密度は 18.6 株/㎡

注２）基肥窒素成分量　2.8kg/10a（前作枝豆）

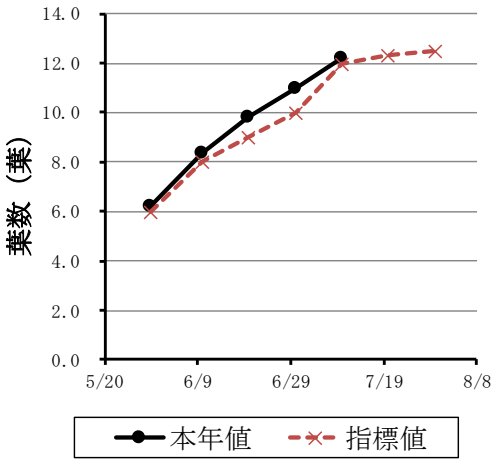
注３）長岡市高野町の生育調査ほデータ



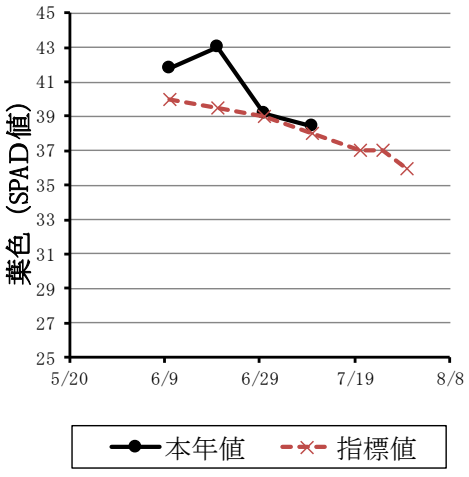
草丈の推移



茎数の推移



葉数の推移



葉色の推移

◎　出穂期は７月 21 日頃と見込まれます。

つきあかり

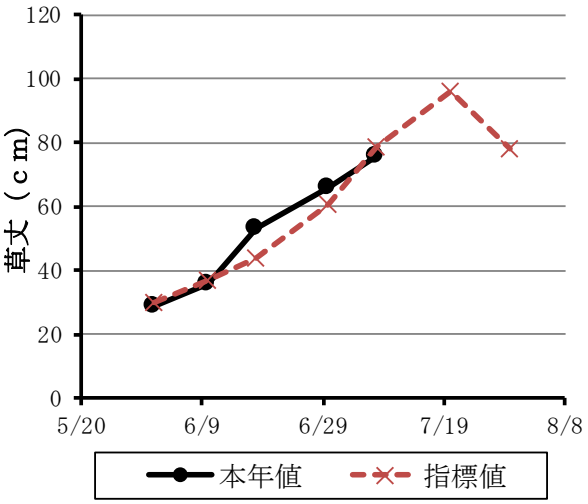
○　指標値に比べ、草丈は「並」、茎数は「やや少ない」、葉数の進みは「やや早い」、葉色は「並」の状況です。

項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	76 cm	79 cm	並	96%
茎数	454 本/㎡	480 本/㎡	やや少	95%
葉数	11.5 葉	11.1 葉	やや早い	+0.4 葉
葉色（SPAD 値）	44.9	45.4	並	−0.5

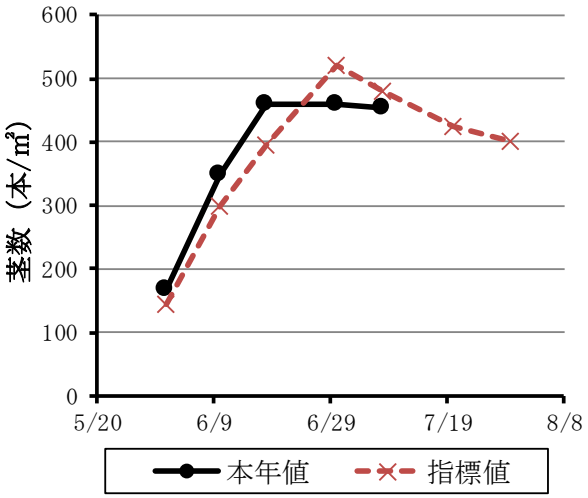
注１）化学肥料栽培　田植え５月７日、栽植密度は 21.2 株/㎡

注２）基肥窒素成分量　7.0kg/10a、穂肥窒素成分量　3.0＋3.0kg/10a(1 回目：6/29、2 回目：7/7)

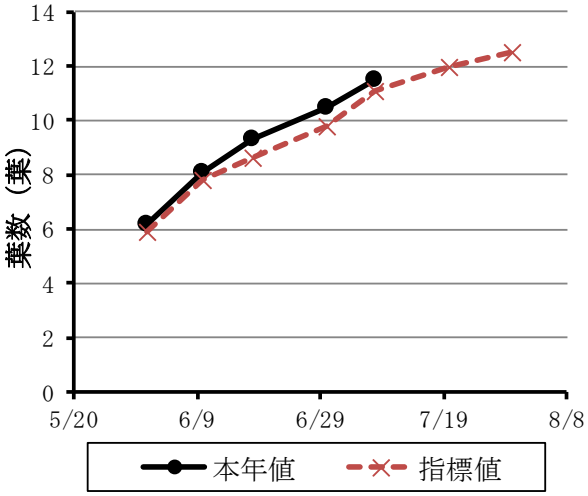
注３）長岡市長倉町（作物研究センター）の生育調査ほデータ



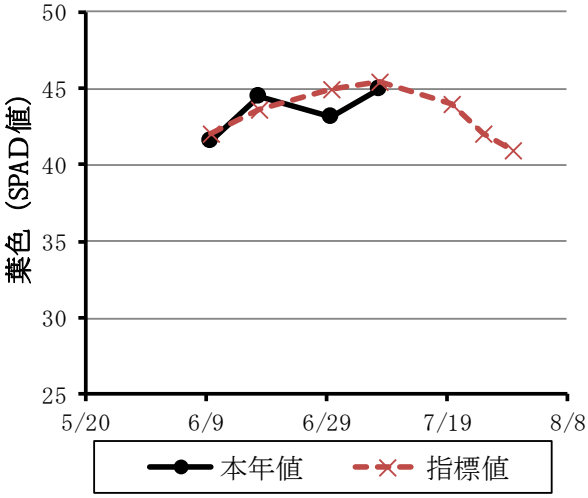
草丈の推移



茎数の推移



葉数の推移

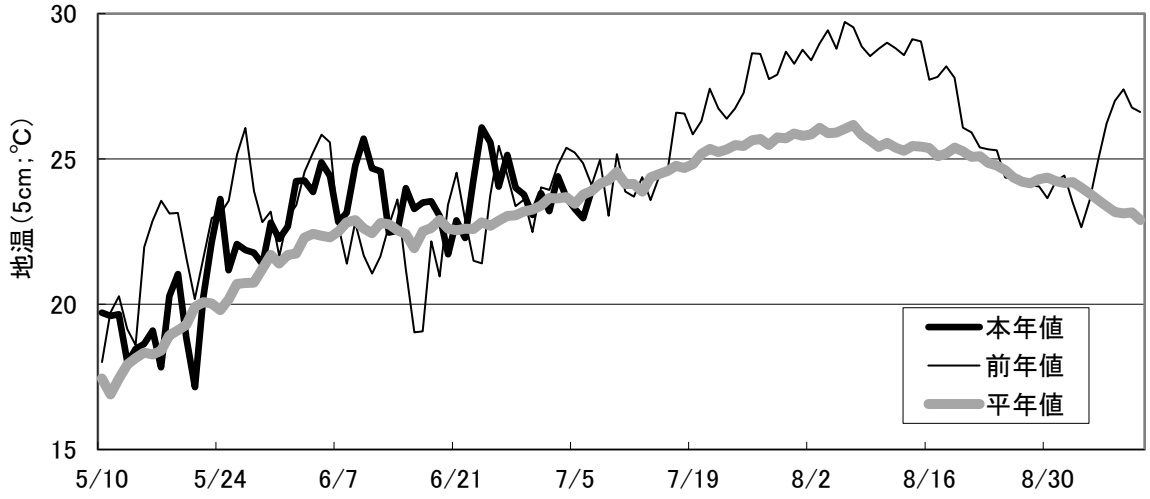


葉色の推移

◎　出穂期は前年並の７月 19 日頃と見込まれます。

２　地力窒素の発現状況

○　６/30～７/７の期間の日平均地温は平年差±0℃で、この期間の地力窒素の発現量は、平年よりやや多く、条間窒素はほとんど残っていません。



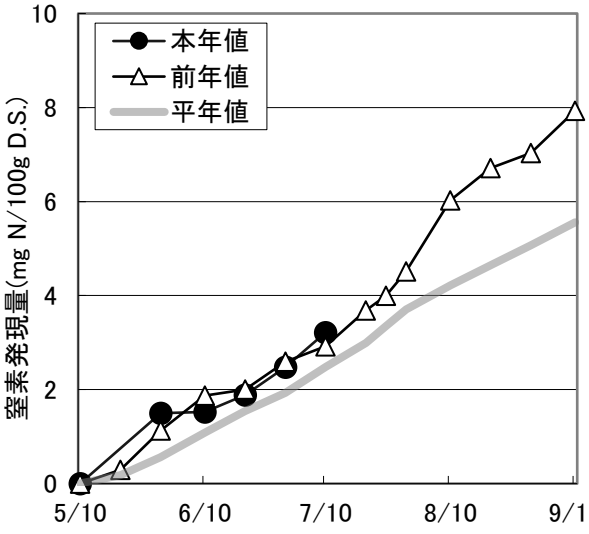
地温（５㎝）の推移

地力窒素の発現状況（農総研基盤研究部調査）　　(mgN/100g)

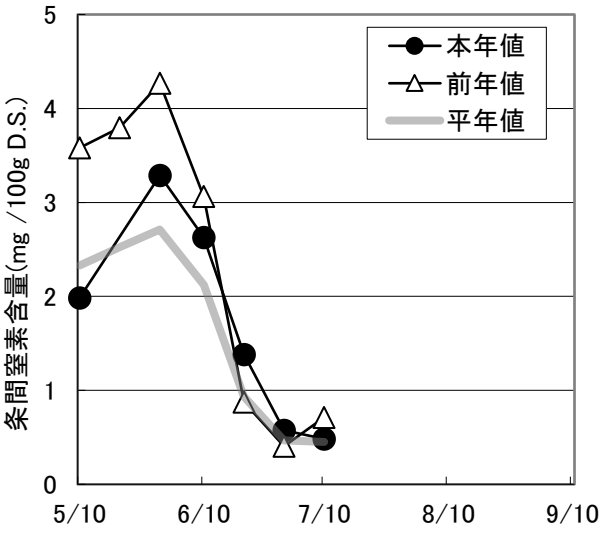
	６月 29 日①	７月８日②	地力窒素発現量※1 (③＝②－①)
本年値	4.5	5.2	0.7
前年値	6.2	6.5	0.3
平年値	4.2	4.8	0.6

※１　小数点２ケタ目の四捨五入の関係で、表中の数値の引き算と合わない場合がある。

※２　化学肥料でＮ成分 3.5kg/10a 施用。移植日：本年５月 11 日（平年５月 10 日）。



地力窒素の発現推移
（初期値を０とした）



条間窒素含有量の推移